

第1章 計画の基本施策

1 計画の施策体系（施策の方針—施策の柱—各施策）

方針1 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

1 新たな時代に対応する取組の推進

- ① Society5.0に対応する教育の充実
- ② 学びの連続性を意識した教育の推進
- ③ 地域とともにある学校づくり

2 誰一人取り残さない社会を目指した教育の充実

- ① SDGs達成に向けた取組の推進
- ② 特別支援教育の充実
- ③ 外国人等の児童生徒への支援
- ④ 学びのセーフティネットの充実

3 安全・安心で充実した教育環境の提供

- ① 安全・安心な学校施設整備の充実
- ② より良い教育環境の維持・整備

方針2 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

1 豊かな心の育成

- ① 個性を尊重する人間関係づくり
- ② 人権感覚の醸成と道徳的実践力の育成

2 確かな学力の向上

- ① 主体的に学びに向かう力の育成
- ② 習得、活用、探究による学びの深化

3 健やかな体づくり

- ① 生活習慣を整えられる子どもの育成
- ② スポーツを楽しむ子どもの育成
- ③ 自ら命と体を守るための安全教育の充実

4 頼もしい教職員の育成

- ①教職員の資質・能力の向上
- ②学び続ける機会の充実
- ③効果的な教育活動のための働き方改革の推進

5 未来を切り拓く生徒を育成する市立高校

- ①探究する精神と姿勢を育む教育活動の推進
- ②生徒の夢実現への支援と充実
- ③地域ネットワークを活用した教育活動及び学校運営の推進

方針3 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

1 人生100年時代を豊かに生きる学びの推進

- ①生涯を通じた学びの場の充実
- ②地域ぐるみの社会教育の推進
- ③新たな時代を生き抜く次世代の育成

2 市民の学びの場である図書館の充実

- ①生涯にわたる読書習慣の推進
- ②本・人・地域をつなぐ人材育成

3 ところ豊かな市民文化の創造

- ①芸術文化の振興
- ②文化財の保存と活用
- ③学びの場である博物館の充実

4 生涯スポーツの推進

- ①する・みるスポーツの推進
- ②スポーツをささえる人材や団体の充実

本計画の見方

2 施策について

本計画は、3つの方針を定めています。

方針1 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

1 新たな時代に対応する取組の推進

■現状と課題

- 情報化社会の急激な進展に伴い、児童生徒に対する情
- 予測困難で変化の激しい時代に対応するため、G
- 小一プロブレム^{※6}、中一ギャップ^{※7}等の成長に伴

め、学びの連続性を意識した教育の推進が急務となっています。

- 子どもたちの活動が、よりよい社会づくりにつながることを価値づけるために、地域と

3つの方針を実現するため、施策の柱を定めています。

方針1は3つの柱

方針2は5つの柱

方針3は4つの柱

現在の富士市における、現状と課題について記載しました。

■今後の方向性

- 教育環境が大きく変化する中、新たな時代に対応すべき施策を、スピード感を持って実施します。
- 国の提唱するSociety5.0に対応するため、GIGAスクール構想の実現やICT機器^{※8}が利用できる教育環境の充実を図ります。
- 全小中学校において小中一貫教育^{※9}を推進するとともに、幼児教育からの学びのつながりを意識した園小中連携^{※10}の施策を進めることで、子どもの成長を連続的系統的に支えます。
- 学校運営協議会^{※11}等を生かした学校運営を推進し、地域と連携した学校づくりを進めます。

現状と課題から検討した、これからの5年間の方向性を示しています。現状と課題に対応しています。

※5 GIGAスクール構想…児童生徒1人1台端末、及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させるための構想。

※6 小一プロブレム…小学校1年生の児童が学校生活に適應できないために起こす問題行動。また、こうした不適応状態が継続し、クラス全体の授業が成立しない状況に陥っていることを指す場合もある。小学校入学直後、遊びから学びに生活の中心が変わり、幼児教育から小学校教育へ指導が一変する段差を乗り越えられないために起こす問題とされる。

※7 中一ギャップ…中学校へ進学する年代の頃に、思春期を迎えることも相まって、新しい環境になじめず、学校の授業についていけなくなったり、不登校やいじめなどが起きたりする現れの総称。

※8 ICT機器…Information and Communication Technology (情報通信技術)の略。インターネットやネットワーク網で得た情報を編集したり、大勢の人へ提示したりするもののコンピュータや大型提示装置。タブレットやプロジェクター等も含まれる。

文中にある※注釈についての説明です。

それぞれの柱につながる施策の内容を示してあります。

■ 施策

① Society5.0に対応する教育の充実

GIGAスクール構想を核として、ICT機器の整備と教育活動への活用を進めます。児童生徒が様々な場面でICT機器を活用し、より一層学びの質が高まるよう、また、教員がICT機器を効果的に活用できるよう、活用に向けた情報提供や研修を進めます。

施策における取組です。
◎は指標に関する取組の名称・内容です。

◎多様なニーズに対応した情報教育研修会の充実
(必須研修・要請訪問・アフター5研修等)

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
教員のICT活用指導力の状況において、「できる」「ややできる」と回答した教員の割合	72.5%	100%
算出方法：「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」		

《その他の取組》

施策における指標です。
新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度を現状値とし、令和8年度の目標値を定めてあります。あくまでも、施策を表す取組の一つからなる指標です。

② 学びの連続性を意識した教育の充実

幼児教育から小中学校教育において、学びの連続性を意識した教育を推進するとともに、特に全中学校区において、各学校区の特色にあった小中一貫教育を推進します。

◎教職員同士の協働による、連続性や系統性のある学習支援や生徒支援の充実

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる連携推進員 ^{*13} の割合	—	100%
算出方法：連携推進員へのアンケート調査		

《その他の取組》
子どもの交流活動の実施、小中合同行事の実施、地域の特色を生かした教育活動の実施、連携推進員研修会の充実、富士川第二小学校・富士川第二中学校における施設一体型小中一貫教育の実施及び研究学園小連携によるアプローチカリキュラム^{*14}・スタートカリキュラム^{*15}実施の推進

施策における取組です。
指標とする取組ではありませんが、各施策の具体的事業です。